

見学調査報告書

テーマ : 横浜開港にかかわる史料・建造物調査および港湾施設見学
ゼミ名 : 村上 研一ゼミ
調査日 : 2021年7月1日(木)
調査先 : 横浜開港資料館、ほか港湾関連施設
授業科目名 : 演習Ⅲ・Ⅳ
参加学生数 : 4年生11名

調査の趣旨(目的)

幕末に欧米列強の圧力を受けて実施された開港は、政治・経済両面で日本の近代化の出発点になり、日本の資本主義的発展の原点となった。横浜開港に関連する史料や施設、港湾設備の見学を通じて、当時の外国との通商が日本社会やその後の経済発展に及ぼした影響について実地にて学ぶことを目的とした。

調査結果

当日は以下のような見学・調査を実施した。

9:50～ JR 関内駅から横浜公園や日本大通りなど、開港場時代からの建設・遺構をめぐり、関内地区の港湾関連施設の配置を見学した。

10:30～ 横浜開港資料館にて、当時の史料から通商の実態や港湾都市建設の経緯について学んだ。

今回の調査を通じて、開港後の急速な欧米諸国の人々の製品の進出、それが経済面では日本産業の発展に深刻な影響をおよぼしかねない事情が明らかになった。ゼミでは3年次より、輸出産業の発展を優先する日本経済の特質について学んだが、こうした特質が開港後の近代化の歴史的過程にも淵源があることを学ぶことができた。

11:30～ 旧波止場周辺、輸出品倉庫跡など、明治期の港湾施設を実地見学した。

13:30～ 関内地区内の外国人居住地を見学調査した。

14:30～ 山手地区の外国人居住地(欧米人居住住宅跡、外国人墓地など)を見学調査した。
以上の見学・調査を通じて、開港後の港湾施設および商業都市の形成を学ぶことができた。

